

寒い寒い冬が終わり、暖かい春がやってきました。昨今の頃は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが宣言され、緊急事態宣言が発令されるなど未知の状況に戸惑い、恐怖を覚えていた頃でした…。今までの環境とは大きく変わってしまいましたが、文化を大切にしたい、文化を楽しみたいという気持ちに変わりはないと思います。今までも、これからも、文化の花は咲き続けます。

第50回長唄演奏会を開催します。

と き ● 令和3年5月9日(日) 12時開演
と ころ ● 豊橋市民文化会館ホール

豊橋長唄協会加盟団体による合同演奏会です。

- ▶ 出演 / 勝奈栄会、松の実会、さくら会
- ▶ 番組 / 一、越後獅子(全員) 二、玄出し三番叟(勝奈栄社中)
- 三、鞍馬山(さくら会) 四、梅の栄(松の実会)
- 五、太鼓の曲(勝奈栄社中) 六、五郎(松の実会)
- 七、都風流(さくら会) 八、廊丹前(勝奈栄会)
- 九、土蜘蛛(さくら会) 十、紀州道成寺(松の実会)
- ▶ 入場料 / 無料
- ▶ 問合せ / 豊橋文化振興財団 ☎0532-39-5211



「ぶんぶくアート茶会の設え」

素材:陶土

主に陶土を使い焼成し、CRAFTやARTを超えて根源的なものを、時には五感で体感出来るものを皆様に届けられるように活動しております。



今号の作品



2021年イベント&企画展予定

- 5.9 PLATでの公演「脈々と流るる」にてアート出演
- 6.1～6.6 豊橋市美術館「第43回豊橋美術展」
- 9.2～9.30 桑名市フランス料理店「イルフェボウ」個展 <https://ilfaitbeau.jp/>

兼藤忍HP <https://2of4of1.wixsite.com/shinobu-kanefuji-art>

リレーエッセイ ほっと豊橋

「演劇と私」

劇団豊橋演劇塾 元劇団員 坂本昌彦

豊橋市が主催していた市民大学講座「トラム」の「豊橋演劇塾」を初めて受講したのが、今から20年程前だったと思う。広報とよはしに出た案内にフット興味を持った。平日の夜、週一回ならなんとか通えるだろうと。

演技の基本を学んだ約半年間の講座は、6、7人の班に分かれてのオリジナル小演劇の発表会で終了した。力を合わせて作品を仕上げる魅力に取り付かれ、その後すぐ、この講座の先輩受講生らが結成した「劇団豊橋演劇塾」に入団した。その時は、『自分が演じてみたい』との純粋な思いだけで、『観客に見てもらおう(に値する)演技をする』ためにどのくらいの稽古が必要か、悲しいかな、まだ知らなかった。

劇団の活動は忙しかった。地域の子も会から依頼される芝居上演が毎年初夏にあり、秋から冬にかけても各種イベントへの参加で、年間3～4本の公演を抱え、年から年中、稽古や道具作りなどに追われていた。アマチュア劇団であり、皆

それぞれに仕事や家庭を支えながらの活動は、30名程の劇団員一人一人の情熱に支えられていた。大学生から80歳台までまさに老若男女、演劇経験もそれぞれだったが、良し悪しは別として、やる気さえあれば舞台に立てた。台本執筆や演出、制作、舞台監督、舞台装置、照明、音響などの専門的な役割も、公演ごとに担当を決め多くの劇団員が担った。

そのうち私は演出も担当することになった。キャストを割り振り、稽古を進め、公演内容に責任を持つ、やりがいはあるが孤独な作業だ。当初は稽古中に他のメンバーの顔色が気になって仕方がなかった。そんな時、大手町にあったカフェ・パロックのマスターで劇団顧問だった榎山新平氏に『思ったとおりにやればいい』と言われ、気持ちが楽になった。彼には稽古や公演本番を見てもらい率直な意見を聞いた。『役者の一生懸命さだけが伝わるようではまだまだだ』『客席にいまひとつ伝わってこないのは何故?—リキミだね』などなど、今でも心に残るセリフをもらった。

私は劇団を10年程前に退団したが、結成して20数年がたつ「劇団豊橋演劇塾」の歴史の中で、出入り含めて100名内外の人が劇団員として活動してきたと思う。私もその、家族や職場とはまた質の違った人間関係の中で人に採られ、自身の出し方と他人の受け入れ方を学んだような気がする。感謝。

写真100展 出品作品募集!

(公財)豊橋文化振興財団が主催する写真展です。広く一般の方からも作品を募集しています。申込書は文化会館にて配布いたします。とっておきの一枚をぜひ発表してみませんか?

展示会期 ● 令和3年6月1日(火)～6月6日(日) 9時～17時(最終日は15時まで)
展示会場 ● 豊橋市民文化会館2階展示室

- ▶ 申込み / 申込書に記載の規定に沿って作品を仕上げ、申込書に記入の上、搬入日にお持ちください。
- ▶ 搬入日 / 令和3年5月14日(金)～5月16日(日) 9時～17時
- ▶ 問合せ / 豊橋文化振興財団 ☎39-5211 豊橋市民文化会館 ☎61-5111



ペン書道展 出品作品募集!

(公財)豊橋文化振興財団主催 ペン書道展を開催します。ペン(ボールペン・万年筆など)で詩・俳句・文章などを表現していただくものです。普段使う筆記具ですが、ぜひ一つの作品に仕上げ出品してみませんか。申込書は市民文化会館にて配布しております。

開催期間 ● 令和3年6月22日(火)～6月27日(日) 9時～17時
(初日は13時から/最終日は16時まで)
展示会場 ● 豊橋市民文化会館 2階展示室

- ▶ 申込み / 申込書に記入し、申込書記載の通りに作品を仕上げ、搬入日に市民文化会館へお持ちください。
- ▶ 搬入日 / 令和3年6月11日(金)～13日(日) 9時～17時
- ▶ 問合せ / 豊橋文化振興財団 ☎39-5211 豊橋市民文化会館 ☎61-5111

伝統文化こども発表会参加団体募集!

伝統文化こども発表会を開催します。舞踊、仕舞、三味線、箏曲など、ご指導されているお子様方の発表の場として参加してみませんか?

- ▶ 日時 / 令和3年9月26日(日)13時開始(予定)
- ▶ 場所 / 豊橋市民文化会館ホール
- ▶ 参加費 / 団体会員は無料
- ▶ 発表時間 / 1団体30分以内 ※希望参加団体数により調整いたします
- ▶ 対象 / 概ね高校生以下で構成される邦楽関係団体またはグループ
- ▶ その他 / 舞台には所作台を数く予定
- ▶ 応募方法 / 指定書式にてFAXまたは郵送にてお申込みください。(参加申込書はPLAT・文化会館にて配布)

豊橋茶道クラブ 月例茶会を再開します。

新型コロナウイルスのため暫く中止していましたが豊橋茶道クラブ月例茶会を5月より再開いたします。感染症対策を徹底した上での実施となりますので、何卒ご協力賜りますようお願いいたします。

【感染症対策による主な変更点】

- ① 定員を減らします
- ② 完全事前予約制とします

【予約方法は下記のとおりです】

【電話】三の丸会館TEL.0532-56-6022
受付時間:午前9時～午後4時30分
【ネット】三の丸会館ホームページ
<http://www.bunzai.or.jp/sannomaru/>

※予約された方には、開催1週間前を目安に予約券をお送りします。当日は忘れずご持参ください。
※コロナ収束までは、当面この方法で開催いたします。

▶ 問合せ / 豊橋市三の丸会館TEL.0532-56-6022

春の市民大茶会中止のお知らせ

4月4日(日)・25日(日)開催予定だった春の市民大茶会は新型コロナウイルス感染拡大にともない開催中止となりました。大変申し訳ございませんが、何卒、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

豊橋文化祭協賛行事募集!

豊橋市および豊橋文化振興財団では、市民の皆様の芸術や文化の振興のため、市内文化施設で実施する文化事業を「協賛行事」として広く募集します。

対象期間 ● 令和3年9月25日(土)～11月30日(火)
【文化祭開会式典開催日】

- ▶ 対象 / 東三河で結成された文化団体・企業が「対象期間」に市内で実施する文化事業で、収益を目的としないもの
- ▶ 協賛特典 / ①本紙等に催事情報を掲載 ②実施団体発行の宣伝物に「豊橋文化祭協賛行事」と表示可 ③財団指定管理の文化施設(市民文化会館、公会堂、ライフポートとよはし、三の丸会館 ※(PLATは除く)で実施の場合、期間中1団体1行事に限り利用料金を免除
- ▶ 申込み / 5月31日までに申請書を(公財)豊橋文化振興財団(〒440-0887 豊橋市西小田原町123 PLAT内 ☎0532-39-5211 Fax0532-55-8192)まで提出
- ▶ 申込書配布 / PLAT、豊橋市民文化会館 ほか

邦楽鑑賞会の開催時間について。

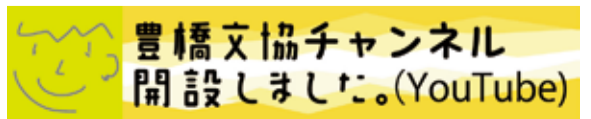
今年度より邦楽鑑賞会の開催時間を一部変更します。お間違えのないようご注意ください。

出演団体アンケートを実施した結果、夜の外出を躊躇う方々の声も多くあり、6月～9月はお昼時間の開催となります。多くの方々のご来場・ご参加をお待ちしております。

第777回 5月14日(金)夜:午後5時30分開演

第778回 6月4日(金)昼:午後2時開演

※第778回(6/4)～782回(9/3)は昼(午後2時開演)となります。第783回(10/1)は午後5時30分開演です。



文化団体紹介 Vol.33

唄・三味線 音弥さん

三味線の素晴らしさをみなさんに伝えたい

今回は唄・三味線の音弥さんの教室におじゃましてきました。音弥さんは武蔵野音楽大学教育学科のピアノ専攻をご卒業されていますが…三味線…?その気になる経緯とは…? — 大学で日本音楽概論を受講し、実際に落語や歌舞伎などいろいろ鑑賞しに行く中で、日本人の体格に合った発声や言葉が魅力的だと感じました。(もちろん西洋音楽も好きでした!)そしてその後就職で豊橋へ。音楽療法関係の仕事をしていましたが、1人目の子どもを出産して育休で時間ができた時に、何か楽器を始めたい、持ち運べる楽器で、年をとればとるほどかっこいい楽器がいいなあと思い市民館でやっていた三味線の教室に参加したのが三味線を始めたきっかけです。—と、三味線との素敵な出会いを話してくださいました。

「三味線は年齢層が高いので子どもたちにも触れてほしい」と、お子さんが小さい時に子ども三味線の教室を始められたそうです。「子どもは子どもに興味があるので、まずはみんなで盆踊りの曲を練習し、盆踊りでほかの子どもたちがいる中で披露しました。もう少し活動の範囲を広げようと思って高山に加え青陵でも活動するようになり、チラシを配り体験に来てもらったことでもあります

よ。」と子どもへの三味線の普及にご尽力されているお話をうかがいました。この日の生徒さんは小学6年生と中学1年生で、「いろんな弾き方があるけど難しい腕が疲れるけれど楽しい」と三味線に夢中な様子でした。大人の教室も高山と有楽町にあり、「初心者大歓迎です!」とのことでした。

教室での活動以外には、イベントや寄席でおひとり弾き唄いをされることや、ピアノとサクソとトリオで披露されることもあるそうです。

「三味線の歴史は安土桃山時代から始まりますが、江戸時代にみんなが三味線で競い合っていた頃の曲がいいですね!今でいうギター的な存在だったんだと思います。だから長唄は今でいうロック、端唄は今でいうジャズに当たるように感じます。三味線の素晴らしさをみなさんに伝えたいですね。」と熱い想いを語ってくださいました。



